

## ■将来都市構造

将来都市構造は、将来の都市の姿形を概念図で表現します。本マスタープランでは、「基本ゾーニング」「都市の拠点」「骨格となる都市軸」などの配置、機能を位置づけています。

### 1. 土地利用ゾーニング

#### 【基本的な考え方】

土地利用ゾーニングの基本的な考え方は、「都市的な土地利用を促進する区域」と農地・森林・水辺などの「自然環境を維持・保全する区域」、及び森林地帯・山間地・農業集落地などに位置する集落居住の「自然環境と共生する区域」の区域区分を明確にします。

#### (1) 都市的な土地利用を促進する区域

##### ①市街地ゾーン

むつ地域、大畑地域の市街地（用途地域が指定されている範囲）を位置づけます。住居・商業及び業務等の都市的な土地利用と地域の生活及び都市活動に必要な機能が、適正かつ効率的に配置された利便性の高い市街地を形成します。

##### ②臨港・業務ゾーン

大湊湾に接しているむつ地域大湊地区の臨港地域、及び大畑地域の水産加工施設の集積がみられる工業地周辺を位置づけます。むつ地域大湊地区の臨港地域は工業系の土地利用を展開していくとともに、水辺や大規模な敷地を活かした観光・レクリエーション系の空間を併せて促進していきます。また、大畑地域の工業地は、既存の工業機能の維持を図ります。

#### (2) 自然環境を維持・保全する区域

##### ①森林ゾーン

本市の西部一帯、及び南東側に位置する山岳・森林地帯位置づけます。本市及び下北広域圏を象徴する豊かな森林空間は将来に渡って地域の貴重な財産として、保全、継承に努めます。また、林業・木材産業の生産地としての空間や介在する歴史文化資源と併せて自然や歴史文化に触れる観光・レクリエーションの空間としての有効活用を図ります。

#### (3) 自然環境と共生する区域

##### ①自然共生ゾーン

むつ地域の市街地周辺から大畑地域の市街地周辺にかけて、及び南部の国道 279 号沿道地域の範囲（現都市計画区域）を位置づけます。周辺に広がる豊かな自然環境などを背景に、これらと共生する農村山村の集落居住の空間を維持していきます。なお、既存の自然環境を保全していくことを原則とし、新たな開発整備を抑制します。

##### ②地域の生活ゾーン

川内地域、脇野沢地域の中心地を位置づけます。居住機能や地域の生活に密着した商業・業務・産業機能がコンパクトに集約された生活の空間を形成します。

## 2. 都市拠点

### (1) 行政拠点

むつ市役所をはじめとする国・県の行政機能、下北文化会館などの文化機能が集積する地区を位置づけます。行政・業務機能及び文化活動などの各種都市活動や情報発信の中心となる都市拠点を形成します。

### (2) 地域拠点

大畑地域、川内地域、脇野沢地域の各地域の中心地を位置づけます。市役所支所や生活に身近な商店街などの行政・商業業務機能が集積した地域の生活の拠点を形成します。

### (3) 医療・福祉拠点

むつ地域の中央地区に立地するむつ総合病院周辺を位置づけます。高齢社会に対応する保健・医療及び福祉が一体となった機能の集積を図り、下北広域圏の医療・福祉の中心となる都市拠点を形成します。また、災害時においては救急救命活動の中心となる防災機能を併せ持ち、防災拠点の一翼を担います。

### (4) 中心商業拠点

商業、業務施設が集積し、旧来からの中心商業地として繁栄しているむつ地域の田名部地区の商業地を位置づけます。下北広域圏の生活・産業・交流の中心にふさわしいにぎわい、固有の歴史文化を活かした商業拠点を形成します。

### (5) 商業・交流拠点

商業、業務施設が集積がみられるむつ地域の大湊地区、大畑地域の新町地区、新しい商業施設が集積しているむつ地域の中央地区を位置づけます。地域の生活のための商業施設や鉄道・バス等の公共交通、幹線道路沿道の良好な交通条件を活かした利便性の高い都市機能が集積する、商業と交流・交通結節機能を有した都市拠点を形成します。

### (6) 工業拠点

むつ地域の大湊湾に面した原子力研究施設や大畑地域の水産加工施設などを工業拠点として位置づけます。既存の工業系施設の維持を図るとともに、地域特性・資源を活かした新たな産業の育成・創出を図る、産業活性化を展開していく都市拠点を形成します。

### (7) 観光拠点

森林ゾーンに立地する恐山、薬研温泉、湯野川温泉等を位置づけます。全国から訪れる観光客を受け入れる体制を整え、交流人口の増加を促進する、情報発信ともてなしの空間となる都市拠点を形成します。

### (8) レクリエーション拠点

むつ地域のむつ運動公園、大畑地域の大畑中央公園、川内地域のふれあいスポーツパークを位置づけます。市民の憩いと交流の場となるレクリエーション空間を形成します。

### (9) 原子力・海洋科学拠点

むつ地域の津軽海峡に面した原子力研究施設やリサイクル燃料貯蔵施設を位置づけます。下北広域圏だけでなく、我が国における原子力・海洋研究の拠点を形成します。

### (10) 防衛拠点

むつ地域に立地する航空自衛隊基地、海上自衛隊基地を防衛拠点として位置づけます。関係機関との連携のもと、地域の産業・経済・交流・防災などに社会貢献する活動拠点として活用します。

### 3. 都市軸

#### (1) 高速広域連携軸

県内主要都市と連絡する下北半島縦貫道路、JR大湊線を位置づけます。本市と青森市、三沢市、八戸市などの周辺主要都市や新幹線駅、高速道路ICなどを結ぶ高速広域連携軸を形成します。

#### (2) 広域連携軸（陸内・海上）

県内主要都市と連絡する国道279号、国道338号、赤川下北停車場線を位置づけます。また、海上の広域連携軸として航路（脇野沢～蟹田・大間～函館）を位置づけます。本市と県内各都市を結ぶ広域的な連携軸を形成します。

#### (3) 圏域連携軸

本市と下北広域圏の町村を連絡する国道279号、国道338号を位置づけます。下北広域圏の生活や産業などの都市活動の円滑化を図る環状型の連携軸を形成します。

#### (4) 地域連携軸

むつ地域の中心市街地内の連携軸として、国道279号、国道338号、赤川下北停車場線、海老川新町線を位置づけます。市街地の交通混雑を緩和するなど、都市交通の利便性の向上を担う連携軸を形成します。

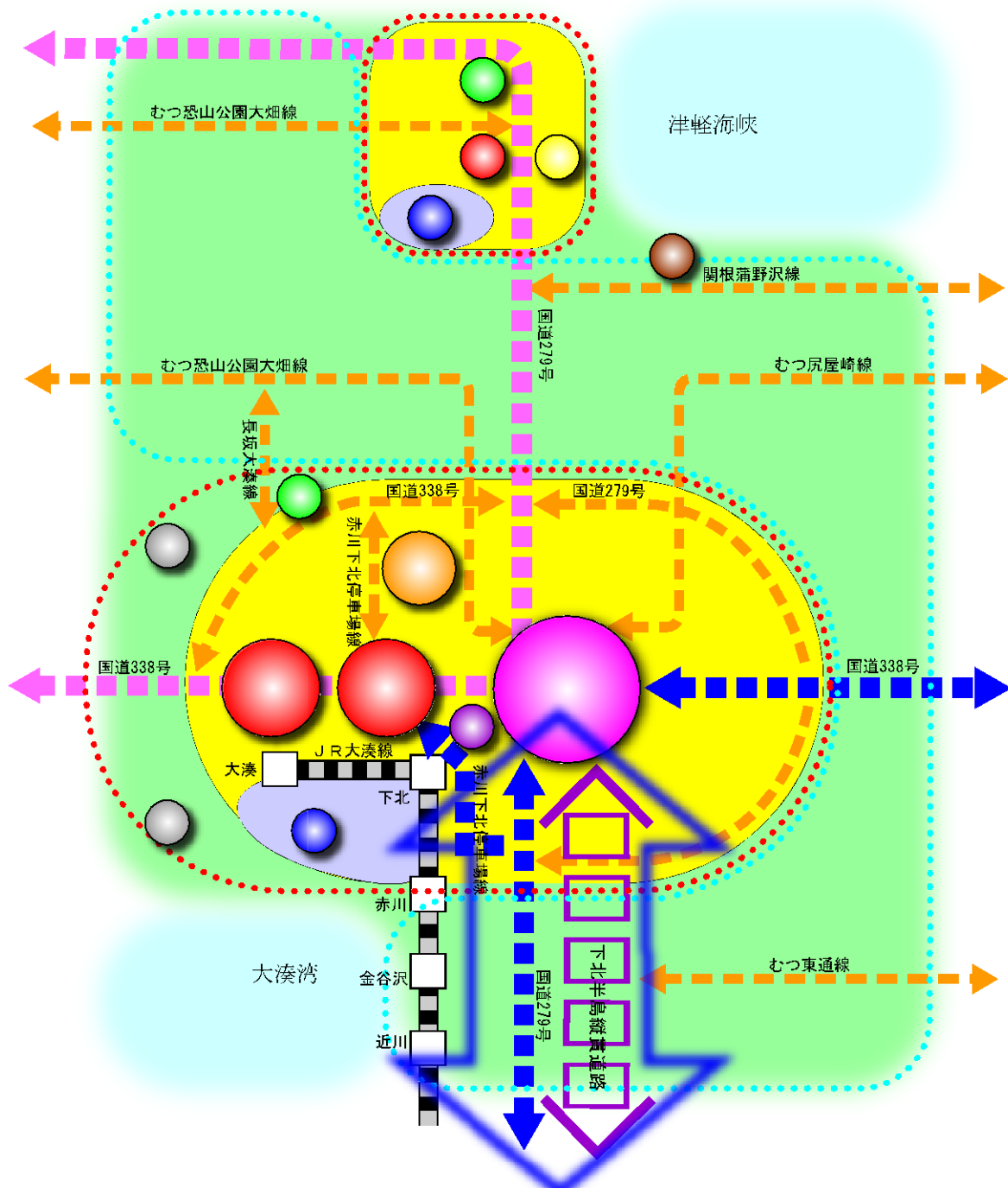
また、本市の各地域と周辺町村を結ぶ地域連携軸として、むつ東通線、むつ尻屋崎線、関根蒲野沢線、長坂大湊線、むつ恐山公園大畑線、薬研佐井線、川内佐井線、長後川内線を位置づけます。周辺町村との連絡や森林ゾーンの観光拠点を結ぶ連携軸を形成します。



凡例

	都市的な土地利用を促進する区域		行政拠点		高速広域連携軸
	市街地ゾーン		地域拠点		広域連携軸(陸内)
	臨港・業務ゾーン		医療・福祉拠点		広域連携軸(海上)
	自然環境を維持・保全する区域		中心商業拠点		圏域連携軸
	森林ゾーン		商業・交流拠点		地域連携軸
	自然環境と共生する区域		工業拠点		
	自然共生ゾーン		観光拠点		
	地域の生活ゾーン		レクリエーション拠点		
			原子力・海洋科学拠点		
			防衛拠点		

図 将来都市構造



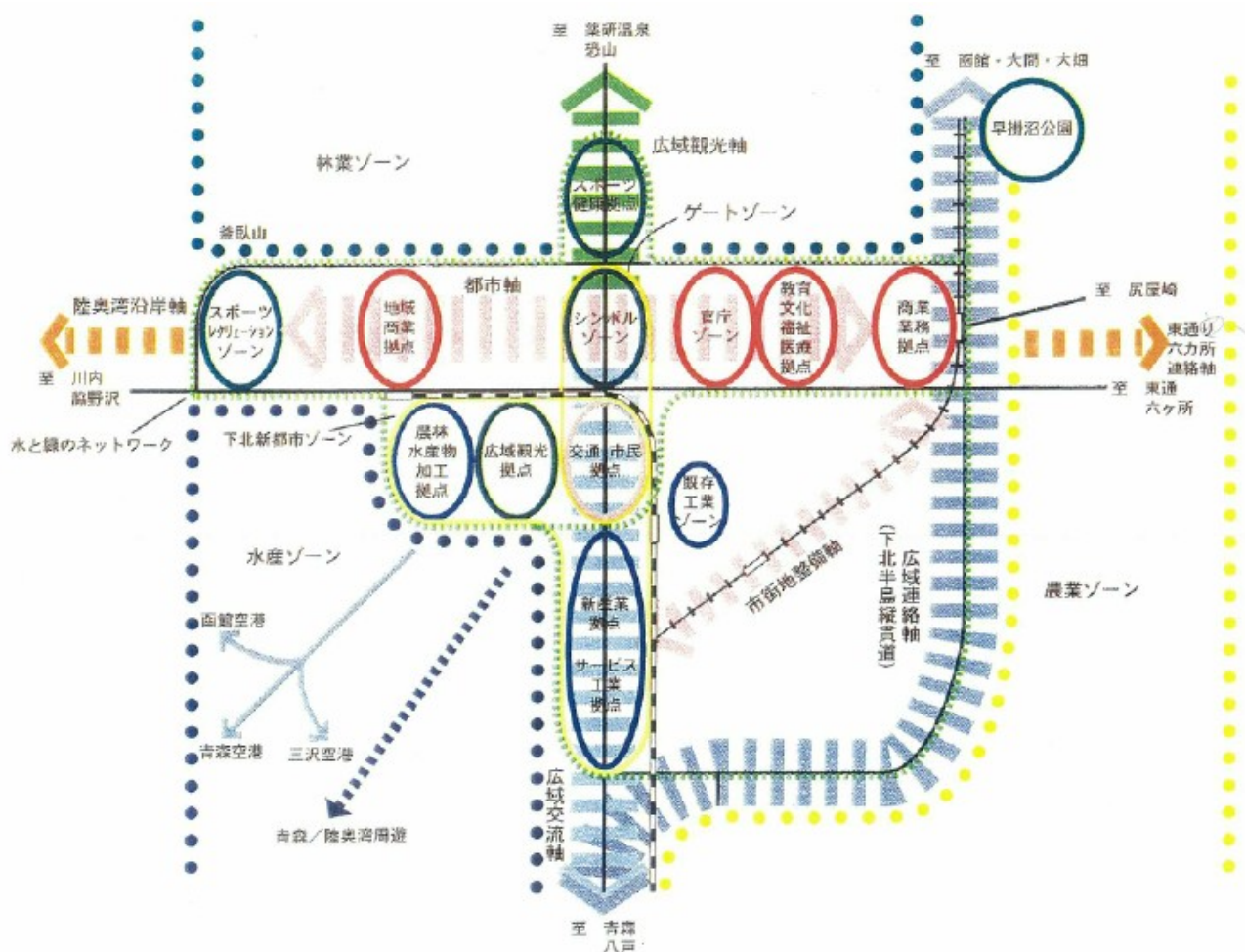
凡例

都市的な土地利用を促進する区域	行政拠点	高速広域連携軸
市街地ゾーン	地域拠点	広域連携軸（陸内）
臨港・業務ゾーン	医療・福祉拠点	広域連携軸（海上）
自然環境を維持・保全する区域	中心商業拠点	圏域連携軸
森林ゾーン	商業・交流拠点	地域連携軸
自然環境と共生する区域	工業拠点	
自然共生ゾーン	観光拠点	
地域の生活ゾーン	レクリエーション拠点	
	原子力・海洋科学拠点	
	防衛拠点	

図 将来都市構造（むつ地域・大畑地域の市街地）

## 【参考資料】

### ■将来都市構造図（旧むつ市都市計画マスタープラン：旧むつ市）



## 【都市軸】

本市の中心市街地から釜臥山系の森林エリアまでを都市軸として位置づけ、下北地域の中核となる高次の都市機能を配置する。都市軸はその周辺に住居系市街地を配することにより、地域間を連絡するとともに都市の一体性や自立性を高めるものである。

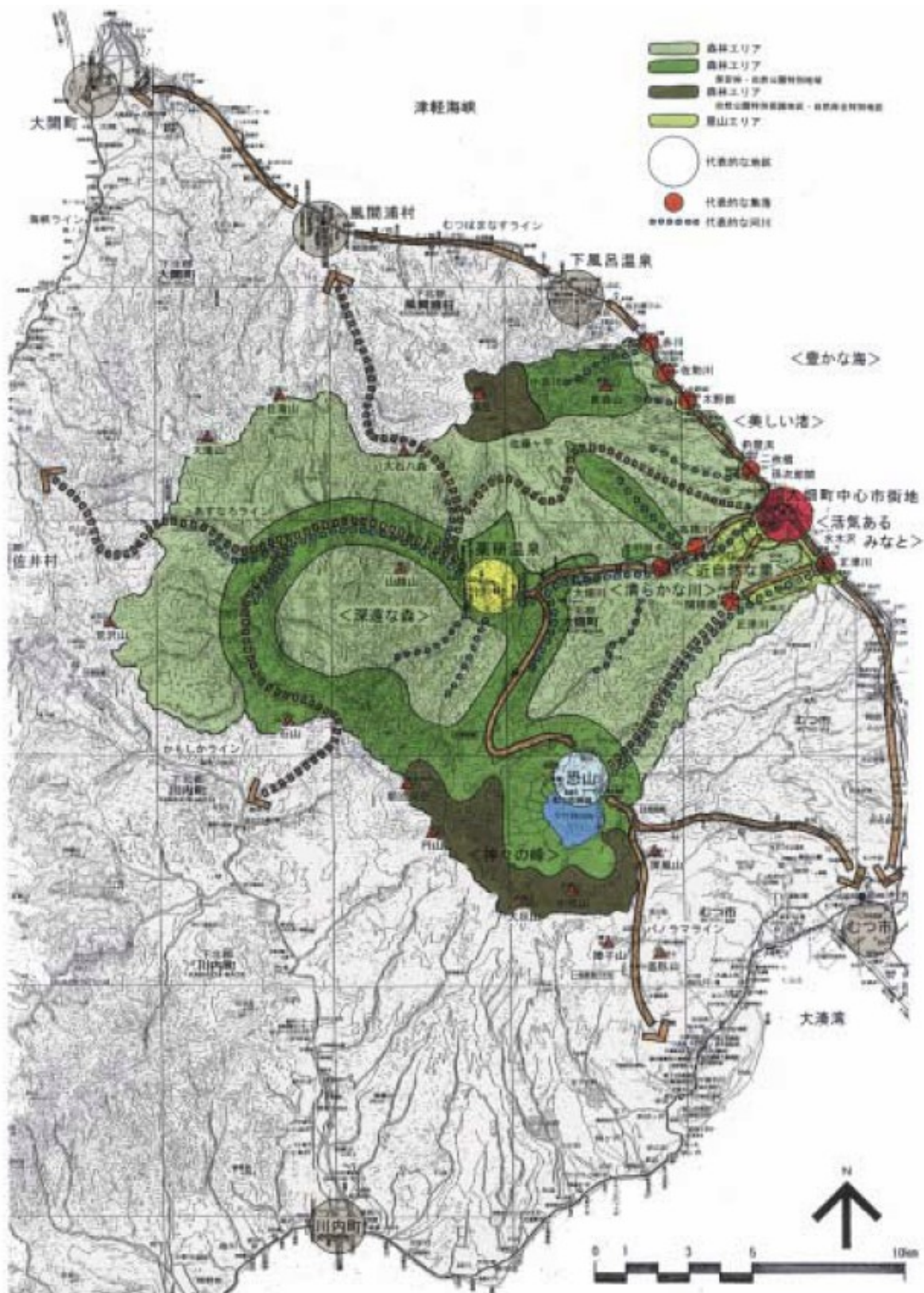
## 【下北新都市ゾーン】

本市のウォーターフロントにあたる大湊港周辺地区を下北新都市ゾーンとし、地場産業やサービス産業、エネルギー関連等の産業機能、広域的な交通拠点や観光機能の導入により下北圏域全体を活性化する都市空間の形成を図る。

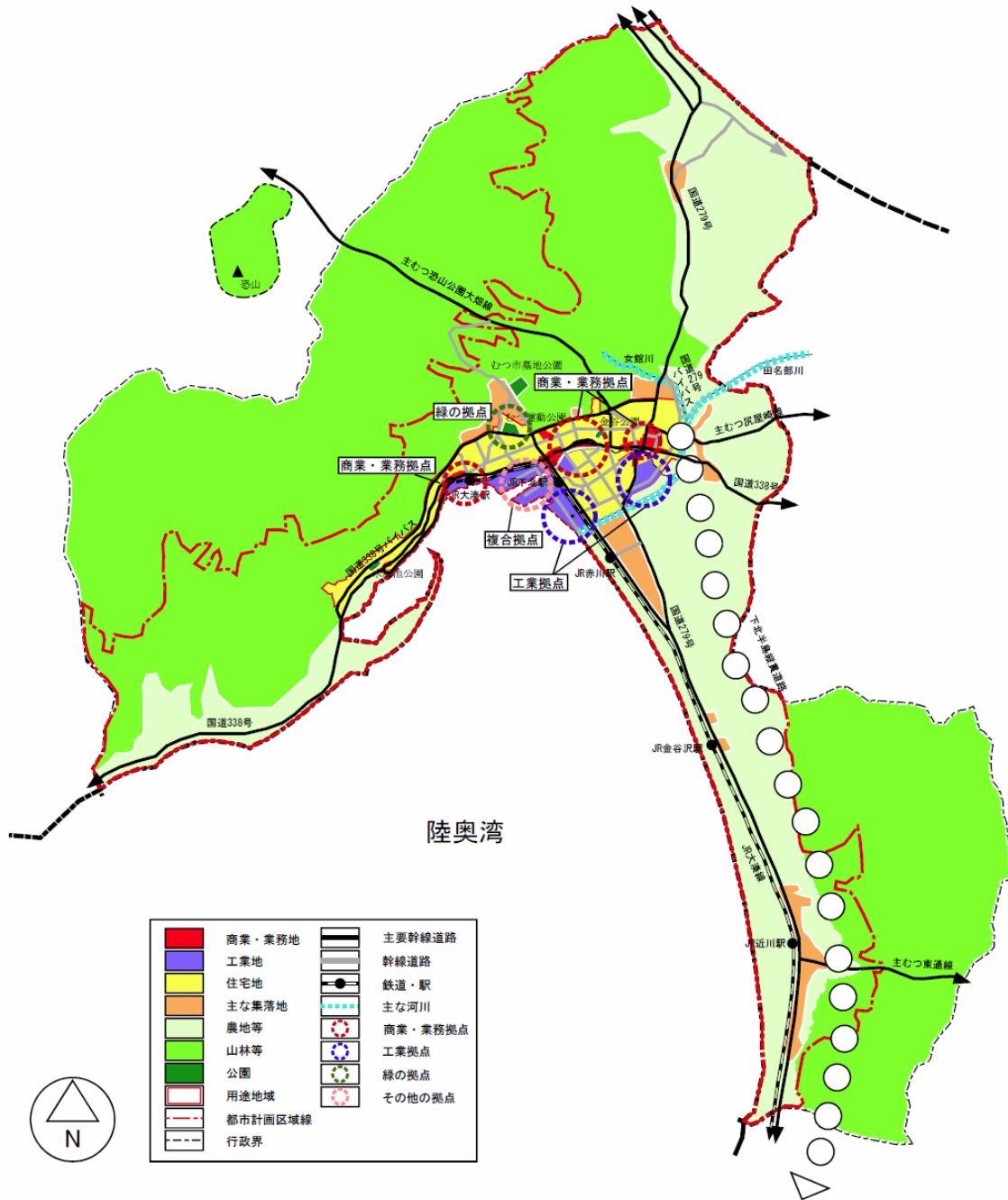
## 【ゲートゾーン】

本市の中心に位置し、また玄関口ともなる地区をゲートゾーンとし、本市の顔づくり（シンボル）となる賑わい空間の創出や陸・海・空の交通拠点により下北圏域及び他圏域との広域的な交流を推進する都市空間の形成を図る。ゲートゾーンを中心に本州と北海道を結ぶ広域交流軸や広域観光軸が形成されるものである。

■将来都市構造図（旧大畑町まちづくりプラン：旧大畑町）



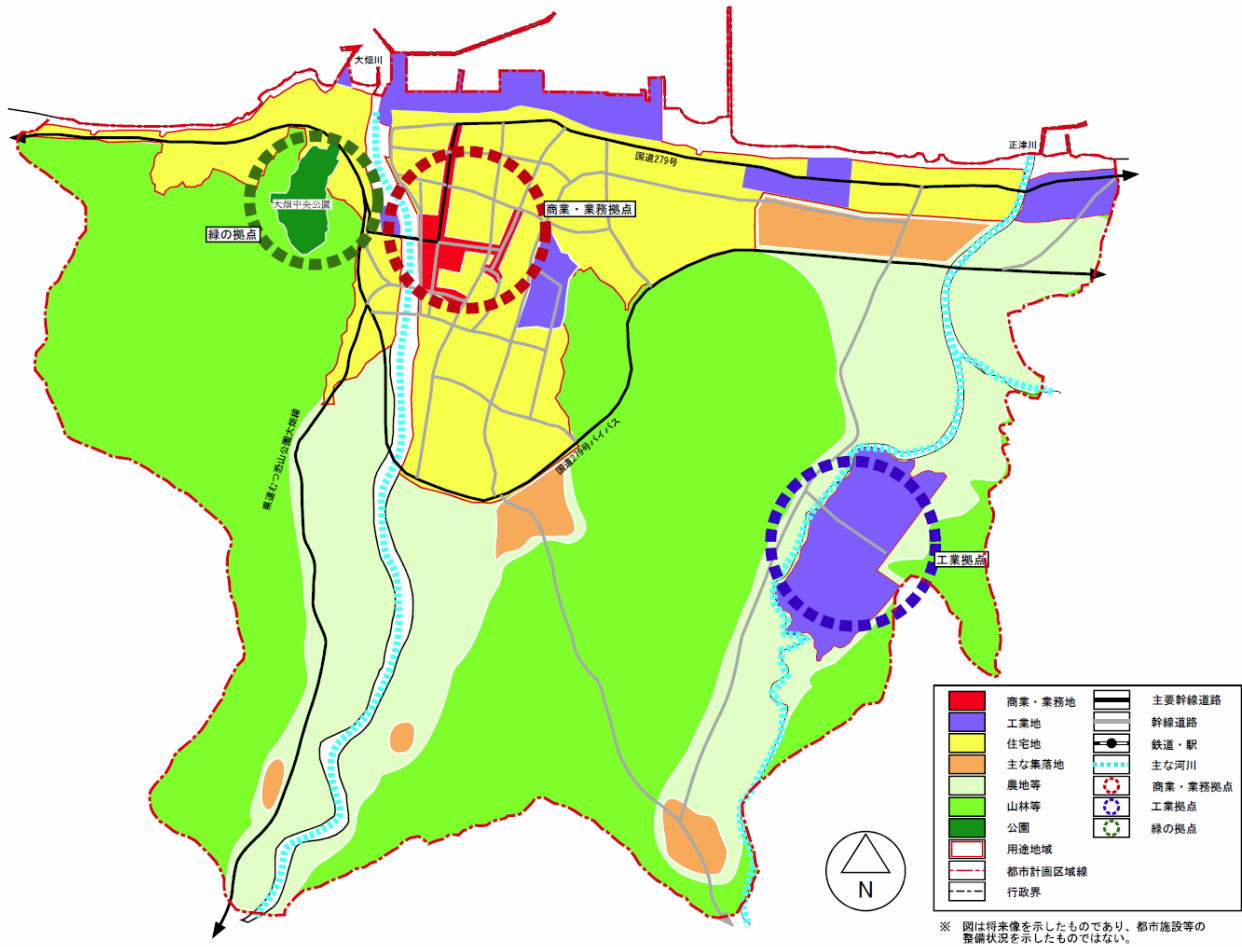
■目標とする市街地像（むつ都市計画区域マスタープラン：青森県）



※ 図は将来像を示したものであり、都市施設等の整備状況を示したものではない。



■目標とする市街地像（大畑都市計画区域マスタープラン：青森県）



※ 図は将来像を示したものであり、都市施設等の整備状況を示したものではない。